

Ⅰ学期の漢字

たしかめ Ⅰ

5	4	3	2	1
並	段	腹	砂	視
並列に電池を並べ豆電球を点灯させる。	安い値段で原料を買う。	腹が痛い。腹痛だ。	砂鉄は砂の中に混じっている鉄。	視点を変えて考え直す。

たしかめ Ⅱ

10	9	8	7	6
純	異	洗	認	降
単純明快な説明でよく分かる。	常と異なることだから「異常」。	汚れた衣類を洗う機械が洗濯機。	「認可」とは、願いを認めて許すこと。	電車を降りたら雨が降っていた。

たしかめ Ⅲ

15	14	13	12	11
乱	舌	捨	背	射
乱雑な使い方をして部屋が乱れる。	失敗し、思わず舌を出す。	四以下は捨て、五以上は切り上げる四捨五入。	背中からバーを跳び越す背面跳び。	射程距離に入った獲物を矢で射る。

たしかめ Ⅳ

20	19	18	17	16
展	拡	映	誌	域
夏休みの作品を展示する。	道路を拡張する工事。	映像をスクリーンに映すから「映画」。	雑誌の付録が楽しみだ。	私の学校の通学区域は広い。

## たしかめ 1

1	してんをかえて かんがえなおす。
2	さてつはすなの なかに まじっている てつ。
3	はらが 痛い。ふく痛だ。
4	やすい 値だんで げんりようを かう。
5	へいれつに でんちを ならべ まめでんきゆうを てんとうさせる。

## たしかめ 2

6	でんしゃを おりたら あめが ふっていた。
7	「にんか」とは、ねがいを みとめて ゆるすこと。
8	汚れた いるいを あらう きかいが せん濯き。
9	つねと ことなる ことだから 「いじよう」。
10	たんじゅんめい かいな せつめいで よく わかる。

## たしかめ 3

11	しゃてい 距離には いった 獲ものを やでいる。
12	せなから バーを 跳び越す はいめん跳び。
13	よんいかは すて、ごいじようは きりあげる ししやごにゆう。
14	しっぱいし、おもわず したを だす。
15	らんざつな つかいかたをして へやが みだれる。

## たしかめ 4

16	私の がっこうの つうがくいきは ひろい。
17	ざっしの ふろくが たのしみだ。
18	えいぞうを スクリーンに うつつから 「えいが」。
19	どうろを かくちようする こうじ。
20	なつやすみの さくひんを てんじする。

たしかめ 5

25	24	23	22	21
蒸	承	我	訪	蔵
もち米を蒸気で蒸してお餅つき。	「その件、承りました。」と承諾した。	夢から覚め、我に返る。	訪日した大統領が原爆資料館を訪れた。	蔵の中に秘蔵していた宝物。

たしかめ 6

30	29	28	27	26
恩	従	臨	就	処
犬は三日飼えば恩を忘れず。	従順に指示に従うかわいい愛犬。	海に臨む場所にある臨海工業地帯。	職に就くことを「就職」という。	交通事故の処理をする警官。

たしかめ 7

35	34	33	32	31
腸	臓	脳	律	裁
腸で栄養を吸収する。	内視鏡で内臓の様子を調べる。	大脳と小脳からできている脳。	規律を守って楽しい学校生活。	訴えや争いを裁くことが「裁判」。

たしかめ 8

40	39	38	37	36
呼	密	私	胃	肺
呼んでも返事が無い。人工呼吸を始める。	体と心は密接に関係している。	私は生き物の世話が好きだ。	食べ過ぎて胃が痛い。胃薬を飲む。	肺から酸素を取り入れている。

たしかめ 5

25	24	23	22	21
もちごめを じようきで おして お餅つき。	「その けん、うけたまわりました。」と しょう諾した。	ゆめから さめ、われに かえる。	ほうにちした だいとうりようが げん爆しりようか んをおとずれた。	くらの なかに 秘ぞうしていた 宝もの。

たしかめ 6

30	29	28	27	26
いぬは みつか かえば おんを 忘れず。	じゅうじゆんに しじに したがう かわいい あいけん。	うみに のぞむ ばしよに ある りんかい ころぎようちたい。	しよくに つくことを 「しゅうしよく」という。	こうつうじこの しよりを する 警かん。

たしかめ 7

35	34	33	32	31
ちようで えいようを 吸収する。	ないしきようで ないぞうの ようすを しらべる。	だいのうと しょうのうから できているのう。	きりつを まもって たのしい がっこうせいかつ。	訴えや あらそいを さばくことが 「さいばん」。

たしかめ 8

40	39	38	37	36
よんでも へんじが ない。 じんこうこ吸を はじめる。	からだと ころろは みっせつに かんけいしている。	わたしは いきものの せわが すきだ。	たべすぎて いが 痛い。 いぐすりを のむ。	はいから さんそを とりいれている。

たしかめ 9

45	44	43	42	41
簡	激	刻	存	吸
雑多な情報を簡略化する。	激しい流れを激流という。	地球の温暖化は深刻な問題だ。	日本にも象が存在していた。	息を吸ったり吐いたりする「呼吸」。

たしかめ 10

50	49	48	47	46
障	券	疑	難	机
停電で工事に支障が出る。	映画館の入場券を買う。	「それ本当?」、疑わしくて半信半疑だ。	難しくて解決するのは困難だ。	机の周りを整理する。

たしかめ 11

55	54	53	52	51
勤	銭	署	警	派
会社に勤める父は電車で通勤する。	銭湯は、銭を払って入る風呂。	税金を徴収する税務署。	暴風警報が発令された。	表千家や裏千家は茶道の流派。

たしかめ 12

60	59	58	57	56
枚	納	収	供	諸
配る紙の枚数を数える。	税金を納めることが「納税」。	二桁勝利を収め、収入が倍増した選手	食品メーカー提供の番組。	諸国を旅して見聞を広める。

たしかめ 9

45	44	43	42	41
ざったな	はげしい	ちきゅうの	にほんにも	いきを
じょうほうを	ながれを	おん暖 <sup>だん</sup> かは	ぞうが	すったり
かんりやくかする。	げきりゆうという。	しんこな	そんざいしていた。	吐 <sup>は</sup> いたりする
		もんだいだ。		「こきゅう」。

たしかめ 10

50	49	48	47	46
ていでんで	えいがかの	「それ	むずかしくて	つくえの
こうじに	のにゅうじょうけんを	ほんとう?」	かいけつするのは	まわりを
ししょうが	かう。	うたがわしくて	困 <sup>こん</sup> なんだ。	せいりする。
でる。		はんしんはんぎだ。		

たしかめ 11

55	54	53	52	51
かいしゃに	せんとうは、	ぜいきんを	ぼうふうけい	おもてせんけや
つとめる	ぜいを	徴収 <sup>ちゅうしゅう</sup> する	ほうが	裏 <sup>うら</sup> せんけは
ちちは	払 <sup>はら</sup> っては	ぜいむしよ。	はつれい	さどうの
でんしゃで	いる		された。	りゅうは。
	ふ呂 <sup>ろ</sup> 。			

たしかめ 12

60	59	58	57	56
くばる	ぜいきんを	ふた桁 <sup>けた</sup> し	しよくひん	しよくを
かみの	おさめる	しょうりを	メーカー	たびして
まいすうを	ことが	おさめ、	ていきようの	けんぶんを
かぞえる。	「のうぜい」。	しゅうに	ばんぐみ。	ひろめる。
		ゆうが		
		ばいぞうした		
		せんしゅ。		

たしかめ

13

65	64	63	62	61
座	探	暮	宣	染
バスの座席に座る。	宝物を探し求める。	毎日楽しく暮らしている。	テレビで宣伝中の新型自動車。	「染色」とは、布や糸を染めること。

たしかめ

14

70	69	68	67	66
庁	尊	権	著	幼
気象庁の天気予報を聞く。	人を尊いものとして敬うことが「尊敬」。	「人権」は、人が人らしく生きる権利。	著者の人気で著しい本の売れ行き。	幼稚園は、幼い幼児が通います。

たしかめ

15

75	74	73	72	71
宇	冊	沿	届	装
宇宙旅行も夢ではない。	月に平均五冊の本を読む。	目的や話題に沿って話し合う。	注文品を配達先に届ける。	装いも新たに新装開店。

たしかめ

16

80	79	78	77	76
晩	幕	誤	俳	宙
朝から晩まで研究に没頭する科学者。	幕を張った中に將軍がいたので幕府。	書き誤りを誤字という。	俳句には季語を必ず入れる。	軽やかに宙返りする体操選手。

たしかめ

13

65	64	63	62	61
バスのざせきにすわる。	宝 <sup>たから</sup> ものをさがしもとめる。	まいにち たのしくくらししている。	テレビで せんでんちゅうの しんがたじどうしゃ。	「せんしよく」とは、ぬのやいとを そめること。

たしかめ

14

70	69	68	67	66
きしようにちようの てんきよほうを きく。	ひとを <sup>けい</sup> とうとい ものとして 敬 <sup>うやま</sup> うことが 「そん敬」。	「じんけん」は、ひとがひとらしくいきる けんり。	ちよしゃの にんきで いちじるしい ほんの うれゆき。	よう稚 <sup>ち</sup> えんは、おさない ようじが かよいます。

たしかめ

15

75	74	73	72	71
う宙 <sup>ちゆう</sup> りよこうも ゆめではない。	つきにへいきん ござつの ほんを よむ。	もくてきや わだいに そつて はなしあう。	ちゅうもんひんを はいたつききに とどける。	よそおいも あらたに しんそうかいてん。

たしかめ

16

80	79	78	77	76
あさから ばんまで けんきゅうに 没 <sup>ぼつ</sup> とうする かがくしゃ。	まくを はった なかに 将 <sup>しょう</sup> ぐんが いたので ばくふ。	かきあやまりを ごじ という。	はいくには きごを かならず いれる。	かるやかに ちゅうがえりする たい操 <sup>そう</sup> せんしゆ。



84	83	82	81
論	延	窓	模
口論をやめ、冷静に話し合う。	予定日を先に延ばすことが「延期」。	車窓から眺 <sup>なが</sup> める窓の外の景色。	大規模な平城京の復元模型。

84	83	82	81
こうろんをやめ、れいせいにはなしあう。	よていびをさきにのばすことが「えんき」。	しゃそうから眺 <sup>なが</sup> めるまどのそとのけしき。	だいきぼなへいじようきようのふくげんもけい。